



「笑顔とつながり」

永田台

サスティナブルスクール

No.574 10月号
横浜市立永田台小学校
TEL (714) 4277
令和5年9月29日



進んであいさつ
笑顔あふれる
住みよいまちに

「の秋」の話

副校長 藤澤 達

空気が乾燥してさらっとなり、気温も快適で過ごしやすい秋になりました。夏が好きな人にとっては、やがて寒さもまといはじめ、徐々に冬に向かう秋の訪れは嬉しくないことかもしれませんが、それでも秋のさわやかさは格別でしょう。

そのせいかどうかは分かりませんが、秋は他の季節とは比べ物にならないほど、「の秋」と表現されることが多い季節なのです。ざっと挙げてみても「実りの秋」「収穫の秋」「芸術の秋」「音楽の秋」「美術の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」「読書の秋」「行楽の秋」「紅葉の秋」など、すぐにくつも思い浮かびます。皆様にとっての「の秋」はどのようなものでしょうか。

私が真っ先に思いつくのは、なんといっても「食欲の秋」です。私はいろいろな地域や土地、国々の食べ物や料理を楽しみ、味わうのが大好きです。それは、旅行に出かけるときの目的の一つでもあります。以前、台湾を訪れた際、夜市と呼ばれる屋台街で、はじめて「臭豆腐」を食べました。お店とその周辺は何とも言えない独特な豆腐を発酵させたにおいがしているのですが、油でカリッとあげた臭豆腐は臭みも全く気にならず、ニンニクの効いた甘酸っぱいたれとサクサクな食感でとても美味しいものでした。別のお店では甘しょっぱく蒸し煮したものを食べてみましたが、こちらが味がよくしみ込んでいて、少々ピリ辛で、大変美味しかったです。日本国内だけでも、その地域ならではの料理がありますし、世界に目を向ければ、じつにたくさんの食材や食べ物があり、調理方法もさまざまです。一口食べて、すぐに美味しいと感じる料理もあれば、自分の口には合わないなと思ってしまう食べ物もありますが、どちらにしても、それらの「食」の裏には、その土地の歴史や文化が必ず潜んでいるものです。その地域や国の、歴史や文化を思いながら料理を味わうのは、とても楽しいことです。

ところで、諸外国の人々と比べると、日本人というものは、いろいろな食に対してとても受容的であるのだそうです。個人のレベルで言えば、もちろん好き嫌いや食わず嫌いはあるのですが、日本人は、初めて出会う食材や料理に対しても興味をもって受容的に受け止め、積極的に味わおうとする傾向が強いのだそうです。それは言い換えると、さまざまな文化の良いところを受け入れ、積極的に取り入れていく力が強いということかもしれません。

さて、各学年・学級ではそれぞれの「かがやきの時間」のテーマに沿って、子どもたち一人ひとりが課題意識をもって楽しみながら取り組んでいます。10月からは後期がはじまります。活動もいよいよ本格化していくことでしょう。今後も、子どもたちは「かがやきの時間」をとおして新しいこと、知らないことにたくさん触れていくと思います。そのような知識や体験を頭と体と心で美味しく味わったり、ときには不思議な味だと考えたりしながら、夢中になって学び続けてほしいです。そして、自分を成長させる糧としていくことで、たくさんの栄養、学びを身につけていく「かがやきの秋」にしていきたいと考えています。

